

むすめ さけ 娘の叫び

むすめ
娘がトイレからさけ
叫んでいる。

「おかあさん、来てー！ 早く！！」

むすめ さい
娘は6歳だ。トイレでうんちをしておしりをふくときに、わたし よ
私を呼ぶ。それは
いつものことなのだけれど、きょう ちが こわ み たす
今日はいつもと違う。怖いものでも見たような、助
けを求めるとよえ わたし よ
ような声で私を呼んでいるのだ。

わたし いそ
私が急いでトイレに行くと、むすめ な かお
娘が泣きそうな顔で、「うんちが、ね、うんち
がプラプラする！」と、いう。「うんちが、プラプラ？ どういうこと？」と、
わたし
私はわけがわからずにむすめ き
娘に聞いた。しかし、むすめ
娘は「だから、うんちがプラ
プラするの！」と、うんちプラプラをく かえ
繰り返すだけだ。

「いったいどうしたんだろう？」。わたし むすめ み
私は、娘のおしりを見た。すると、たし
確かにむすめ
娘のおしりから、なに
何かぶらさがってプラプラしている。それはしろいろ むすめ
白色で、娘
のおしりのあな で
穴から出て、トイレのそこ とど
底に届きそうなぐらいなが
長い。

「えっ、なに？ むし
虫？」と、わたし ふあん み
私は不安になってよく見てみた。するとそれは、
うんちでもなく、むし
虫でもなく、いっぽん
一本の「えのきだけ」だった。

きのう よる
昨日の夜は、みんなで鍋料理を食べた。お腹がすいていたむすめ
娘は、えのきだけ

をよくかま^たずに食^{むすめ}べた。それが娘^{なか}のお腹^{なか}の中^{とお}を通^{いま}って、今^{いま}、おしり^でから出^でよう
としている。しかし、上^{じょうず}手に穴^{あな}から出^でられないで、プラプラ^でしてしまったのだ。

プラプラ^{むすめ}がえのき^{わたし}だけ^{おおわら}だったとわ^かかった娘^{むすめ}と私^{わたし}は大^お笑^{わら}い。「ご^かはんはよく
ん^たで食^{むすめ}べようね」と約^{やく}束^{そく}して、私^{わたし}は娘^{むすめ}のおし^りりをき^{れい}いにふ^いた。

(574^じ字)

(2022.1 Written by Toru YOSHIKAWA)



この作品^{さくひん}はク^りエイ^{テイ}ブ・コ^モンズ^{ひょうじ} 表^ひ示^{えいり} - 非^{けい}営^{しやう}利^{くわい} - 継^{けい}承^{くわい} 4.0 国^{こく}際^{さい} ライ^{らい}セン^{せん}ス^{もと}の^{ていきやう}下^{もと}に提^{てい}供^{きやう} され^てい^ます。この
作品^{さくひん}を^り用^{よう}する^{ばい}場^{ばい}合^あいは、「た^しど^くの^{ひろ}ば」を^{しゅ}出^{てん} として^{しめ}示^せして^{くだ}さ^い。

例^{れい}) 出^{しゅ}典^{てん}: 「た^しど^くの^{ひろ}ば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.